

## 第12回

# 誌上ひとりワークショップ

## シリーズ2

### ～その2 「自分の考えを率直に言いたい」ロールプレイ～

**岡田 隆介**

広島市子ども療育センター精神科

#### 6. 児童相談所心理判定員Cさんのロールプレイ

「Aさんにおたずねします。ほんとうはこんなやりとりをしたい、できるならこうしてみたい、みたいな思いがあって提出されたのではありませんか？」

「(A) はい、そのとおりです」

「その具体的なイメージみたいなのがあれば、話していただけませんか。せっかくだから、みんなで考えたいと思うので」

「(A) わかりました。先ほどもちょっと言ったのですが、この方のように行き詰まっておられる人に対して率直に自分の考えを伝えられたらいいな、という思いが常にあるんです。もちろん共感的に話を聞き、可能な限りサポートします。でももう一步踏み込めないかと、そうしないと申し訳ないみたいな気持ちになるんです。だって、日々困っているのだから。もちろん、先ほどのBさんのように言ってもらえたら、そうか、あれはあれでよかったのかなと思うんですけど。でも、やっぱり自分のアイディみたいなものを伝えたいです」

「なるほど。自分の感じたことや具体策をもっと積極的に伝えたいということですね？似たような思いをお持ちの方、いらっしゃいますか？ほう、結構いるんだ」

「(A) 安心しました、心強いです」

「どうでしょうか、似たような相談での体験談をお持ちの方、あるいは自分だったらこんな意見を言う、こんな提案をする、こんなやりとりをめざす、等々アイデアがある方、おられませんか？」

「(C) そんなたいそうなものではないのですが、ちょっと思いついたことが・・・」

「はい、お願いします」

「(C) 先ほど、ここでの約束事として『～したのがよかった』『～しなかったのがよかった』を言われました。それを実際に使ってみてとても感じがよかったので、それを面接でできないかと思ったのです。ちょっとやってみてもいいでしょうか？」

「それはすばらしい着想ですね。是非、お願いします。相手役は引き続きBさんをお願いしてもいいでしょうか？」

「(M役) あいかわらず深夜までネットして、昼ごろ起きてくる生活です。注意したらパトカーが来るようなことになるし、言わないとずっとあのままでしょうし、このままでいいのでしょうか。何かわたしにできることはありませんか？」

「(T役) 私、この仕事をしてずっとやってきてわかったことがあるんです。口幅ったい言い方で恐縮ですが、心配事がある場合、なにかをすることだけが解決策ではないと思うんです」

「(M役) え？それは、どういうことですか？」

「(T役) なにかをしなない、という選択も同じくらい意味のあることではないでしょうか。もちろんそのためには、しなないための努力と覚悟が必要ですが」

「(M役) なにかをしなない？どういうことですか」

「(T役) なにかをしなないというのは、なにもせずにサボるのとは全然意味が違います。やらないほうがいいことはやらない、というちゃんとした解決策です。お母さんの場合、“お子さんの背中を押すことをいまはしない”のは立派な解決努力だと思います」

「(M役) できないからしないのではなく、理由があってしないという意味ですか？」

「(T役) そう、まったくその通りです。たとえば、関心がないから、あるいはめんどうだから背中を押さない、だったとしたらどんどん悪くなったでしょう。でも、実際はさほど悪くはなっていませんよね」

「(M役) このところは、そうだと思います」

「(T役) それが立派な解決策をしているという証明ではないでしょうか」

「(M役) そうか、そういうことなんだ・・・」

「(T役) はい。闇雲にやれることをやるのは、報われないだけでなく悪くするがあります。それに対し、すべきでないことはしないのは堅実な選択肢です」

「(M役) なんかホッとした気持です。でもまた焦りだすかもしれません (笑)」

## 7. 意見と感想

(拍手)

「どうもありがとうございました。では、感想を聞いてみましょう。まず、大活躍のBさん」

「(B) ともかくびっくりしました。なにもできていないのではない、なにもしないという解決策を選択しているのだと言われて。目が点になって、そのあとなるほど腑に落ちたんです。現に悪くならないでしょと言われて。ちょっと鳥肌が立つくらいすごかったです」

「(C) さっきの面接と先生の話がヒントになっただけです」

「確かに、Bさんが楽になってるのが横から見ていてもわかりましたよ。じゃあ、みなさんの感想を伺います」

「(F) ただ認めるだけじゃなくて、“なぜなら～”と添えているのがよかったと思います。すごく説得力がありました」

「(H) Cさんがどっしり落ち着いているのがよかったです。それで説得力が増していると感じました」

「(D) 経験から学んだと言ってるのも、自然な感じがしてよかったと思います」

「(E) Bさんが腑に落ちたところで、大丈夫！みたいな励ましを付け加えないのがよかったです」

「(G) そうそう、やったという感じで調子に乗らなかったのがよかったです」

「(J) ロールプレイのことではないのですが、先生の話のすぐ面接に取り入れられるのがスゴイと感心しました」

「(I) 今のを見させてもらって、私もやってみたくなりました。いいでしょうか？」

「はい、大歓迎です。ちょっとその前に、やってみてどうでした？Cさん」

「(C) 本当は、大慌てでバタバタしていたのです。でもそうは見えないといわれて、そういう外見のことも重要なだと学びました。“～がよかった”という感想はほんとに勇気づけられるものだと実感しています。とてもうれしいです。ありがとうございました」

「ではIさんに、相手役を指名してもらいますが、今度はBさんには傍から見てもらいましょう」

「(I) じゃあ、Jさん、お願いしていいですか」

## 8. スクールカウンセラーIさんのロールプレイ

「(M役) あいかわらず深夜までネットして、昼ごろ起きてくる生活です。注意したらパトカーが来るようなことになるし、言わないとずっとあのままでしょうし、このままでいいのでしょうか。何かできることはないですか？」

「(T役) なるほど。ちょっと教えて欲しいのですが、いま、いちばん子どもさんに望んでいることはなんですか？」

「(M役) 朝起きて夜寝る生活をして欲しいです」

「(T役) 学校に行く行かないよりも、まず？」

「(M役) そうです、とりあえず生活リズムをちゃんとして欲しいですね」

「(T役) なるほど。逆に、いちばんやってほしくないのは？」

「(M役) 乱暴なことです。パトカーが来るような騒ぎはして欲しくない」

「(T役) ゲーム三昧よりも？」

「(M役) だって、それはご近所に迷惑をかけませんから」

「(T役) 確かに、そうですね。となると、月曜にはお昼を食べに出かけるし、パトカーの回数も減っているし、ガラスは割れていないし、“やってほしくないことの減少”は実現しつつありますね」

「(M役) まあ、そう言えばそうだけど」

「(T役) うまくいきた理由というか、以前と違うやり方があれば教えて欲しいのですが」

「(M役) うまくいってるかどうかは知りませんが、いちいち言うのがめんどろで、諦めかけているのが以前との違いです」

「(T役) というと？」

「(M役) 細かいことをチマチマ言うのに疲れたんです」

「(T役) なるほど、それくらいの距離で向き合うのがピッタリはまったのかもしれませんがね」

「(M役) どれくらいの距離ですか？」

「(T役) 細かいことをひとつひとつかまってもやらない、という距離です」

「(M役) 大雑把でいいということですか？」

「(T役) はい、いい感じだと思います。親子の距離とかその間を流れる空気は、家庭によって、時期によって違って当然だと思うんです。お宅の場合、いまいいところにむけて変わりつつあるという気がします。ゴールまでにはもう少し時間がかかるかもしれないけど、そちらに向いているという感じがありますね。そんな気がなさいませんか？」

「(M役) 距離とか空気とか、よくわかりませんが、最悪の頃に比べるとマシなのは事実です。ただ、我が家ではちょうどいいとしても、それじゃあ世間的には通用しないでしょう？」

「(T役) えっ、世間ですか・・・」

「(M役) たとえば、学校とか社会では通用しないでしょう？」

「(T役) 確かにまあ義務教育の場は距離は近いし空気は濃いし、彼にはきついでしょね。ですが、社会はいろいろあるから。仕事で言うと、農林業や作家・研究職なんて距離は遠いし空気も薄いでしょう？ チームで動く仕事は真逆でしょね。つまり、社会に出る際に選ばばいいってことだと思います、最適な職を」

「(M役) まさか、研究者になるとは思わないけど、新聞配達とか水道のメーターを見て回る仕事は向いてるかもしれませんね」

「(T役) でしょ？会社勤めだって、職種や規模によって全然違いますから。世間で通じるかどうか心配するより、自分にあう距離を知ること、それがいまいちばん大切なのではないのでしょうか」

「(M役) 確かに。あの子だって、今のまま大きくなるわけではありませんものね。学校が濃すぎて近すぎるというのは、実感として分かる気がします」

「(T役) この話は夫婦関係や近隣との関係にも言えるでしょうね (笑)」

## 9. 意見と感想

(拍手)

「ありがとうございます。まだまだ続きそうでしたが、Jさん、いかがでした？」

「(J) 楽しかったです。いつまでもやっていたい感じで。ちょっと前を見て生きようかなって感じがしてきました。夜明けが近づいてる、みたいな」

「そうですね、わたしも楽しい面接は大好きです。さて、みなさんの感想を聞いてみましょう」

「(B) いちばんしてほしいことを先に聞いておいてから、いちばんやめてほしいことを具体的に話して

もらって、既に実現できていると持って行くのはスゴイと思いました」

「(D) そうそう、私もそこに感心しました。はじめから作戦をたてていたのですか？」

「(I) 実は、さきほどのCさんの面接で“するのがいい”と“しないのがいい”の対比がおもしろくて、“してほしい”と“やめてほしい”を対比させてみようと思いました」

「みなさん、どんどん進化していきますね」

「(G) 空気の濃さという言葉が良かったです」

「(H) 私も、魅力的な言葉だと思いました」

「(A) 学校の友達関係とか勉強がどうこういうのではなく、その空気が濃過ぎるという説明は腑に落ちました。誰も責めないところがよかったです」

「(C) そうそう、人間関係ではなく空気と表現することで、愛情だとか信頼を持ち出さず、母親を責めたり慰めたりしなかったのがよかったです」

「(E) そのあたりの延長上に楽しい面接ができたのでしょうか。素敵だと思います」

「(F) 私も賛成です。こんな重い話題を、たとえつかの間であっても楽しく語り合えるなんてすごいことだと思います」

「はい、どうですかIさん？」

「(I) ありがとうございます。楽しむ余裕なんてぜんぜんなくて、もういっぱいいっぱいでした。特に、世間では通用しないでしょうって言われたときは頭が真っ白になりました。そしたら勝手に空気だとか距離だとかって口から出てきて、ちょっと不思議な体験でした。Jさんがお上手だから、うまくのせてもらったんだと思います」

「それって、面接の神様が降りてきた瞬間でしょう。ちよくちよくありますよね？ないですか？そうですか。いや、どうもありがとうございました。みなさんがたくさんのアイディア・意見・感想を出してくれたので、Aさんだけでなく、私も含めてここにいるみんなにとって刺激的で有意義な時間になりました。この後は、私の方からもいくつかアイディアを出して見ようと思います。それをもとにして、引き続きこの事例をみんなでお考えしましょう。では20分間の休憩を取ります」